

## 水軍武将、九鬼嘉隆

鳥羽の歴史と文化は、海と密接に結びついています。鳥羽市を代表する歴史上の人物のひとり、九鬼嘉隆（1542-1600）は、戦国時代（1467-1568）最強の水軍武将として名を馳せました。

嘉隆は、田城城（現在の鳥羽）城主の次男として志摩に生まれました。嘉隆の幼少期についてはほとんど知られていません。九鬼家はこの地域の覇権を争っていた数家の海賊衆の一家でした。最終的に九鬼家はこの地を追われ、1570年頃、武力による天下統一を目指していた戦国武将、織田信長（1534-1582）の配下に入りました。

嘉隆は多くの戦いで水軍を指揮し、信長の勢力拡大に多大な貢献をしました。嘉隆は大砲を搭載した巨大な鉄板船を6隻建造しました。ある戦の重要な局面で、これらの水上の砦は敵艦隊を沈め、海上封鎖を行って敵軍を降伏させました。武功の褒美として、嘉隆は鳥羽地域の領主に任命されました。

織田信長の死後、嘉隆は信長の後を継いだ豊臣秀吉（1537-1598）に仕え、秀吉の水軍の司令官と志摩の領主に任じられました。嘉隆に1592年の朝鮮侵攻のための新艦隊をつくるよう命じた秀吉は、完成した旗艦に大変感心し、日本全体を代表するにふさわしいという意味をこめてこの船に「日本丸」と名付けました。秀吉の肝いりで嘉隆が築いた鳥羽城は1594年に落成しました。

やがて嘉隆は隠居し、九鬼家の家督を息子の守隆（1573-1632）に譲りました。しかし、その後の1600年、天下分け目の関ヶ原の戦いで父子は対立を余儀なくされました。嘉隆は引き続き豊臣家方で戦った一方、守隆は敵方の徳川家康（1543-1616）の軍勢に加わりました。一部の歴史学者は、これはどちらが勝っても九鬼家の存続を確実にするための戦略的な決断だったと考えています。

徳川軍が勝利すると、嘉隆は鳥羽城から近くの答志島に逃れました。守隆は家康に父親の命乞いをし、嘉隆は恩赦されました。しかし、その知らせが届く前に、嘉隆は切腹（割腹による儀式的な自害）を遂げました。嘉隆の遺体は答志島に埋葬されています。